

鳥取県米子市における 地方での就労移行支援事業所の歩み ～地域のニーズに合わせた取り組みからの学び～

○村岡 美咲・松尾 亜紀(特定非営利活動法人クロスジョブ
クロスジョブ米子 就労支援員)

濱田 和秀(特定非営利活動法人クロスジョブ)

濱田 真澄(特定非営利活動法人クロスジョブ)

砂川 双葉(特定非営利活動法人クロスジョブ)

1. 本発表の目的

- 就労移行支援事業所は、2018年をピークとして漸減傾向にあり、2020年には3,301か所にまで減少している¹⁾。
- もとより事業所数が少ない地方においては、就労移行支援事業そのものの存続が危ぶまれる事態が生じており、日本で最も人口の少ない鳥取県・西部圏域の就労移行支援事業所は2か所のみとなった。
- 地域で事業を存続させるため、地域での就労に向けたニーズを把握し、ニーズに合わせた支援に取り組んで見えた現状と課題を報告する。

2. 地方ならではの施設外就労

	大山保養所	アトムカンパニー株式会社
業務内容	・客室清掃・整備 ・環境整備(除草・花植え・水やり・落ち葉掃き・デッキ掃除など) ・洗車 ・雪かき(冬季のみ) ・ウォーキング	・建築資材運搬 ・ショールーム清掃 ・環境整備(除草・剪定など) ・薪割り
アセスメントポイント	・筋力 ・体力の持続力 ・寒暖差への対応(体調管理・服装管理・グッズの使用など) ・体の使い方、道具の扱い方 ・空間認知能力 ・作業基準の判断力(植物、環境の状況による作業遂行の判断) ・臨機応変な対応力(天候や予約状況で業務内容が変化) ・外作業での声かけ(室内より大きな声が必要) ・協調性	

2. 地方ならではの施設外就労



雪かき



剪定



ビニールハウス解体

3. 地方ならではの施設外就労（事例）

基礎情報

ケンタさん（仮名） 20代・男性

診断：自閉症スペクトラム症・軽度知的障害 療育手帳Bを所持

特別支援学校卒業後、当事業所で1年5ヶ月の訓練を経て、農家に就職。

シフト変更から就職まで

学生時代から体を動かすのがお好きで、体験利用時から施設外就労に参加。
利用開始から断続的に体調不良による欠席が続いたが原因が分からず。

見学、実習の振り返りで「ビルの中は緊張する」、「少人数の環境が良い」、
「体を動かす仕事が良い」、「運転の不安があり近い職場が良い」といった整理を進める。
長期欠席が続いた時期「訓練は仕事という感じじゃなくて気持ちが上がらないのかも」、
「事業所の環境が合わない気がする。施設外はリフレッシュできる」といった訴えあり。

医療アプローチとともに、施設外就労中心のシフトとすると、訓練に参加しやすくなった。
リラックスして力を発揮できる職場を開拓し、最終的にご自宅周辺の農業地帯での就農が
候補にあがる。つながりのある農家さんに求人情報をいただき就職へ。

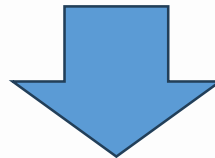
⇒就職後、ほぼ欠席なし！「体調が良くなった」と実感される。

3. 地方ならではの施設外就労（事例）

～施設外就労中心のシフトへ～

利用開始当初の訓練シフト

	月	火	水	木	金
AM	軽作業	PC	学習	学習	PC
PM	学習	軽作業		PC	軽作業



施設外就労中心の訓練シフト

	月	火	水	木	金
AM	施設外 就労	施設外 就労	ウォーキン グ	施設外 就労	施設外 就労
PM		面談			

3. 地方ならではの施設外就労（事例）

～施設外就労でのアセスメント～

アセスメントポイント	アセスメント結果	整理
協調性・筋力・体や道具の使い方・空間認知能力	運搬で周囲と協調した声かけ、先を見通した自発的な行動をされた。 雪かきや草集めでは、道具や体の使い方の上手さが見えた。	体や道具の使い方が上手で、空間認知能力、協調性や筋力があり、体を動かす仕事で力を発揮できると整理。
作業基準の判断	どこまでやったら良いか分かりづらさが見られた。基準をお伝えすると記憶して取り組めた。	基準が曖昧な場合、基準を見本を見せてお伝え頂くことを配慮事項として整理。
寒暖差への対応	夏季に水分補給をあまりされず、意識的に水分補給することに難しさが見られた。服装の管理も十分ではなかった。	時間や区切りを決めて水分補給することとした。季節に応じた服装について確認。体調管理は働きながら身につけていく課題として企業様にも共有。
臨機応変な対応	天候による業務変更、急な依頼業務にも臨機応変に応じてくださる様子あり。	業務のイメージが持てていれば、臨機応変な対応ができる力をお持ちである。
外作業での声かけ	声が小さい場面が多かったが、休憩中は大きな声が出ていた。声のボリューム調節がしづらいほか、緊張が声のボリュームに影響している。	環境に応じた声のボリューム調節は苦手だが慣れると声が自然と大きくなることを整理。

4. ネットワークを活かした企業開拓

例えば、農業の見学先にて・・・

近くで他にも人手を求めておられる
農家さんはいませんか？



〇〇さんに聞いてみますね！

**地域のネットワークを活かした情報収集は
他の業種でも有効。**

4. ネットワークを活かした企業開拓

- 人材を企業現場に送り出す立場として、「**地域で人材を必要としている業界**」について学びを深める必要がある。
- 利用者の就職先である農業や旅館業等では、**若い人材の採用に苦慮されている現状**を知った。

⇒しかし、外国籍の方や短時間アルバイト、シルバー人材等の雇用をすすめ、多様な働き方を実現されている。

⇒障害のある方も自身に合う働き方で力を発揮され、戦力として活躍している。

地域の産業や雇用情勢について理解を深める必要がある。

5. アウトリーチから見えてきた課題

- ・地方では交通の便が悪く、公共交通機関が少ない。
⇒利用者の居住地や企業の場所によっては、自家用車がないと通勤が困難。
⇒エリアや勤務時間が限定されてしまう。
- ・これまで連携した企業の中には、通勤困難者のために自社のマイクロバスで送迎を行う企業もあった。
⇒地域の協議会では、近いエリアの企業に向かう従業員が乗り合わせられるような送迎システムを望む声もあがっている。
⇒実現できれば、障害の有無を問わず、便利なシステムである。



5. アウトリーチから見えてきた課題

- ・就労移行支援事業所への通所の課題も同様。
⇒山間部に在住の方をはじめ、自力での通所が困難な方は「送迎があるから」という理由で他の就労系サービスを選ばれる方も多くいる。

地域として、通所・通勤の課題への対応が求められている。

就職先の幅を広げるために、就労移行支援を利用しながら自動車学校に通う方も増えていますが、両立は大変です。



5. アウトリーチから見えてきた課題

- 就労移行支援の利用をためらう理由として、金銭面の不安を抱える方が多い。
⇒ より多くの工賃を得られる新たな施設外就労先を開拓し、工賃が増額した。
⇒ 金銭面の不安が軽減し、新たな利用ニーズにつながる。
- 企業の実際の業務に携わり、対価を得ながら就労に向けての準備訓練ができる。
⇒ 参加者のモチベーションにもなっている。

6. 考察

- 地方での就労移行支援事業の存続のためには、新規利用対象者へのアプローチとして、アウトリーチは今後も必要不可欠である。

⇒地域のニーズを把握し、より多くの方に必要なサービスを届けたい。

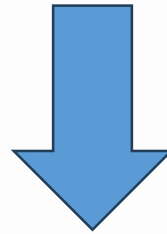
- アウトリーチで見えてきた課題は、地域全体の課題である。行政機関を含む関係機関を巻き込み、地域課題の解決を図る。

⇒非営利活動法人としての使命を果たす。

日頃から関係機関と「顔の見える関係」を密に築けるのは、人口の少ない地方ならではの強み。

6. 考察

- ・多様化している利用ニーズに合わせた訓練プログラムの提供や個別支援が求められている。



画一的な支援ではなく、**地域の特色やニーズに沿った支援を行うことは、地方に限らず、どの地域においても重要である**と考える。

7. 参考文献

- 1) 厚生労働省 令和4年度障害者総合福祉推進事業：地域における就労移行支援及び労定着支援の動向及び就労定着に係る支援の実態把握に関する調査研究